

# 校長室だより



真岡東中 校長室だより

No. 58

2018/07/17/Tue

1 学期終業式まであと 3 日

後の 3 代将軍徳川家光誕生 1604年

「江戸」から「東京」へ名称変更1868年

ポツダム会談開催 1945年

大スター石原裕次郎、53歳で没 1987年

チーム東…生徒・家庭・教職員へ向けての校長通信

高め合い、磨き合い、感動し合い、「愛」いっぱいの真岡東中に！

真岡東中学校HPでもご覧いただくことができます

**あと3日で終業式！夏は社会へ目を向けるチャンス！**

**夏休みだからこそ考えたい「戦争と平和」**

**社会認識を深めていくことも大切な学習！**



平和な時代に…  
夏の風物詩「流しそうめん」

「夏」といえば何を思い浮かべるでしょうか？

3日後は1学期終業式を迎え、いよいよ夏休み(夏季休業)に入ります。中学生は、この夏休みに大きな大会やコンクールがあり、課題・宿題も…。さらに家族で過ごす時間も増えて、夏休みはやりたいことがたくさんあることでしょう。

私は「夏休みは社会へ目を向けるチャンス」と考えています。特に、「戦争と平和」の問題を考えてほしいと思っています。

**太平洋戦争**…太平洋戦争終結の1945年…8月6日に広島、8月9日に長崎と相次いで原子爆弾が投下され、

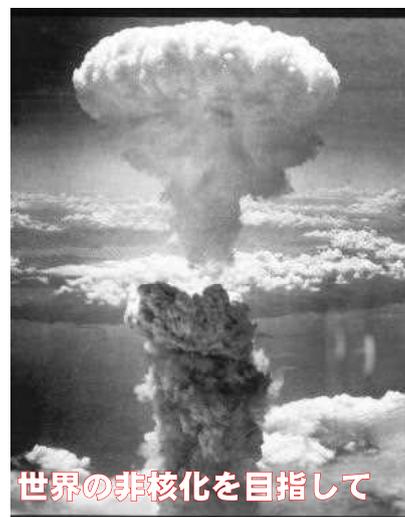
ついに8月15日に終戦となりました。そのため、夏にはテレビや新聞で「広島平和記念日」「長崎原爆の日」「終戦記念日」等について特集を組むことがあります。沖縄戦についての映画『ひめゆりの塔』が上映されたり、学徒出陣で戦地に赴いた若者たちの遺稿集『きけわだつみのこえ』(出目昌伸監督)が映画化されたりすることもありました。

あれから73年目の夏を迎えます。現代では、いや日本では風化されそうな戦争の問題…しかし、21世紀になったとはいえ、過去の戦争の歴史を正確に伝え、平和について考えるのは大切なことと考えます。現に、いまだに世界では紛争、内戦、テロなどが起こり、君たち中学生の目にも否応なくテレビ等を通して「戦争」が飛び込んできています。

この戦争と平和をテーマにした本や映画もたくさん出ていま

す。夏休みは、これらの本を読んだり、映画やビデオを鑑賞するのもよいのではないのでしょうか。身近にいるお年寄りに戦争体験を聞いてみるのもよいでしょう。親子で、家族で「戦争と平和」など社会問題について、改めて考えてみてほしいと思います。夏休みは、社会認識を深め、視野を拡げていく絶好のチャンスであると考えています。

**保護者の皆さん！**…ぜひ、様々な社会問題を話題として取り上げて、お子様と話し合ってみてください。もちろん、「夏休みのしおり」にも目を通していただき、学校のことも話題にしてほしいと思っています。ご協力をお願いいたします。



世界の非核化を目指して



少女を抱える米兵

# 特別支援学級小中交流会開催！～「流しそうめん」を楽しむ～



ときどきフルーツも流れてくる  
特製の手作り「流しそうめん」

夏の風物詩「流しそうめん」を楽しむ…このような企画が、7/13(金)に特別支援学級小中交流会として行われました。真岡東小学校の児童も参加し、お互いに自己紹介した後、一緒にマイ箸を作りました。箸が完成したら、いよいよ流しそうめん！バックネット裏付近に設置した手作りの装置で、流しそうめんを楽しみました。手作りの自動サーバー(写真左)も登場し、ドリンクを飲むことも楽しくなりました。大いに交流を深めた暑い夏のひとときでした。

## 何かをやってみる！チャレンジする夏休みにしよう！

### ◇何かに挑戦を！「ミニ作文」の効用例◇

私が3年生を担当していた7月はじめの頃の話です。

「考えていること、思っていること、感動したことを文章に書ける人を育てる」という方針でミニ作文を書かせました。

「作文なんて嫌い！」「面白くない。もっと面白いことをやりたい！」などと文句を言い出す生徒もいました。しかし、何回か続けているうちにだんだん抵抗なく書けるようになり、不満を言う生徒も少なくなり、私が原稿用紙を配るとほとんどの生徒は熱中して書くようになっていったのです。

はじめのうちは書き出したかと思うと1、2行書くともう手持ち無沙汰そうにして遊んでいる生徒がいましたが、書き重ねていくうちに少しずつ自分の考えを深めるようになっていったのでしょうか。文章も長くなっていきました。そこで、このミニ作文を夏休みも継続して、当時の日記(真岡東中なら『足あと』)に書かせました。

作文は学級通信『がんばろう』に連載し、一人一人の考えをみんなで共有していきました。それが後の学級文集・卒業文集づくりにも生かされていくようになりました。

ある女子生徒は、「今まで作文が嫌いで、原稿用紙に向かうと何を書いたら良いのかと、いろいろ考えても文章がうまくまとまらなかったのです。でも何度も書いているうちに、文も少しずつまとまるようになってきたように自分でも感じてきたのです。友達の作文を読んだりして、それがとても参考になったし刺激にもなりました。今では作文を書くのが楽しく感じられるくらいです。」

またある男子生徒は「学級通信によく天声人語が載っていたので、3年生になってから毎日コラム欄を読むようにした。2学期からは、それを短くまとめたり感想を書いたりするようにした。最初は読むのも大変だったが、だんだんそれが苦でなくなり、何となく漢字力もついたような気がした。これが自信というものだと思う。」

何か一つでもいいから「力がついたぞ！」という自信を持てたら、大人になってもそれが生かせるのではないのでしょうか。修学旅行など、大きな行事ばかりでなく身近な話題について短い時間を利用してミニ作文の実践。「入試に作文があるから…」「仕方ないから…」などといった消極的理由からではありません。続けることは難しいですが、小さな試みも長続きすれば思わぬ力がついてくるものなのです。大きな可能性を秘めている君たちが、何かに挑戦することで力と自信がつくと考えています。



文章化して考えを深める！